

修士論文（要旨）
2026 年 1 月

ローマ字入力による日本語タイピングの困難の実態と背景要因
ー漢字圏出身学習者の視点からー

指導 齋藤 伸子 教授
国際学術研究科
国際学術専攻
言語教育実践研究学位プログラム

224J1004
周 靖輝

Master's Thesis (Abstract)
January 2026

An Analytical Study of Romaji Input Typing Difficulties Among Learners
From Chinese Character Backgrounds

ZHOU JINGHUI

224J1004

Master of Arts Program in Linguistics and Language Education

Master's Program in International Studies

International Graduate School of Advanced Studies

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Nobuko Saito

目次

第1章 研究目的と意義	1
1.1 研究の背景と目的	1
1.2 研究意義と本研究の位置づけ	1
第2章 用語の定義と先行研究	3
2.1 「日本語タイピング」の定義	3
2.2 「漢字圏学習者」の定義	3
2.3 ローマ字入力と日本語教育に関する先行研究	4
2.4 先行研究の課題と問題点	4
第3章 研究方法	6
3.1 研究デザイン	6
3.2 調査対象と手続き	6
3.3 アンケート調査の概要と分析手法	7
3.4 インタビュー調査の概要と分析手法	8
第4章 アンケート調査結果と分析	9
4.1 調査概要	9
4.2 困難感と誤入力の全体傾向	9
4.3 群間比較の結果	9
4.4 統計分析 (t 検定)	11
4.5 統計分析 (t 検定)	12
4.6 総合的考察	14
第5章 インタビュー調査結果と分析	15
5.1 調査対象と調査方法	15
5.2 インタビューから見える日本語タイピングの具体的困難	15
5.3 インタビューへの SCAT 分析	18
5.4 総括と主要課題の指摘	31
第6章 考察と結論	33
6.1 研究結果の総合的考察	33
6.2 日本語教育への示唆	36
6.3 結論	37
6.4 本研究の限界と今後の課題	39

参考文献
付属資料

本研究は、漢字圏出身の日本語学習者のうち、中国語を母語とする学習者が、日本語のローマ字入力による漢字タイピングにおいて、どのような困難を経験しているのかを明らかにすることを目的とする。あわせて、そうした困難が生じる背景にある言語的・認知的要因を検討し、日本語教育における入力指導の在り方について考察を行う。

近年、日本の社会では、メールやチャット、レポート作成など、日常生活から学習・就労場面に至るまで、デジタル機器への日本語入力が主要な書字手段として用いられ、特にコンピュータへの入力にはローマ字入力が方法として用いられることが多い。しかし、日本語教育においては、読み書き指導の中心が依然として手書きに置かれており、ローマ字入力を前提とした指導は十分に体系化されていないのが現状である。しかし、漢字を母語で使用する学習者の場合、漢字の意味理解には強みを持つ一方で、読みの即時想起やローマ字つづりへの変換に困難を感じる場面が少なくない。本研究は、このような教育実践と実際の使用環境との間に生じているずれに着目し、日本語タイピングの問題を検討するものである。

研究方法としては、まず漢字圏出身の日本語学習者を対象に質問紙調査を実施し、日本語入力の使用状況や困難意識について量的に把握した。その上で、より具体的な経験やローマ字入力の認知過程を明らかにするため、半構造化インタビューを行った。インタビューで得られた語りについては、大谷（2008, 2010）の提案する SCAT（Steps for Coding and Theorization）を用いて分析し、学習者がどのように日本語入力に向き合っているのかを整理した。

分析の結果、日本語タイピングにおける困難は、単に入力技能の未熟さに起因するものではなく、漢字の読みの想起、ローマ字表記への変換、入力操作という複数の処理が同時に求められる点に特徴があることが明らかになった。特に、意味理解としては習得されている語彙であっても、入力過程における負荷によって実際の使用が制限されるという状況が、多くの学習者に共通して見られた。

さらに、インタビューからは、こうした困難に対して、学習者が体系的な指導を受ける機会をほとんど持たず、自己流の方法で対処している実態が明らかになった。具体的には、近いと思う音で仮入力して変換候補から探す、漢字を形として記憶し読みは後から調べる、単語登録やコピー＆ペーストによって入力負荷を下げるといった工夫が多く見られた。しかし、これらの方法は場当たりの対応にとどまり、入力能力全体の向上には必ずしも結びついていなかった。

以上の結果を踏まえ、本研究では、日本語教育における「書く」という行為を、手書きのみに限定するのではなく、ローマ字表記や入力操作を含めた文字運用として捉え直す必要性を指摘した。そのうえで、初級段階からの基礎的なローマ字・入力指導の導入や、漢字圏学習者の認知的特性を踏まえた支援の重要性を示した。本研究は、日本語タイピングの問題を学習者個人の能力不足としてではなく、教育的支援のあり方という観点から再考するための一助となることを目指すものである。

参考文献

1. 大谷尚. 4 ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き—名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要. Educational Sciences 54(2).2008, p. 27-44.
2. 大谷尚. SCAT: Steps for Coding and Theorization. 感性工学 10(3).2010, p. 155-160.
3. 国語分科会国語課題小委員会. 教育現場と連携して実施したローマ字に関する実践的研究の概要. 文部科学省資料, 2023.
4. 邱學瑾. 漢字圏・非漢字圏日本語学習者における漢字熟語の処理過程. 日本語教育研究 45. 2002, p. 23-38.
5. 邱學瑾. 漢字圏日本語学習者における日本語単語の意味処理に及ぼす母語の影響. 日本語学習研究 28. 2012, p. 45-62.
6. 長岡由記. 小学校国語科におけるローマ字学習の意義と課題についての検討. 『国語科研究』91, 2022, p. 18-34.
7. 長澤直子. 大学生のスマートフォンと PC での文字入力方法: 一若者が PC よりもスマートフォンを好んで使用する理由の一考察. コンピュータ & エデュケーション. 2017, 43(0), p. 67-72.
8. 陳迪. 中国語を母語とする日本語学習者による日中同形語使用の問題点. 多様なコーパスデータを用いた調査, Learner Corpus Studies in Asia and the World 6. 2024, p. 147-168.
9. 土屋順一. 外国人のための日本語キーボード入力支援システムの母語別カスタマイズ. 電気通信普及財団研究調査報告書 15. 2001, p. 373-380.
10. 馬達. 漢字系列再生課題において中国語母語話者は音韻情報より形態情報に依存するのか. 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要 3, 2022, p. 421-432.
11. 文楚雄・伊藤隆司・盧載玉. 日中韓三か国における漢字教育の現状と課題. 立命館産業社会論集 51(4). 2016, p. 13-50.
12. 大和祐子. 漢字系日本語学習者は日本語母語話者のように二字漢字語を処理できるのか?. 京都大学国際高等教育院紀要 7. 2022, p. 1-15.
13. 大和祐子. 日本語学習者による漢字語彙の認知処理の特徴: 学習者は漢字をどう捉えているか. 日本語教育学会報 60. 2018, p. 15-33.
14. 梁志鋭. 仮名漢字変換入力における認知的負荷について: fNIRS による脳血流計測を中心に. ことばの科学 22. 2009, p. 23-39.
15. 渡邊光浩. キーボードによる日本語入力スキルの指導方略. 鹿児島女子短期大学紀要 56, 2021, p. 47-57.
16. 渡部倫子. 非漢字圏学習者の漢字語彙学習ストラテジー尺度の開発. 漢字・日本語教育研究 4. 2014, p. 30-64.
17. Xuehan Zhao・Sachiko Kiyama 他. Over-reliance on Orthographic Similarity in L2-Japanese Conceptual Processing by L1-Chinese Learners. 日本語教育研究 72. 2025, p. 101-118.

参考ウェブサイト

1. 角川アスキー総合研究所. “日本人は“大人”になるとローマ字入力になるらしい”. 週刊アスキー. 2015-3,
<https://weekly.ascii.jp/elem/000/000/318/318179/> (参照 2025-06-25) .
2. 教育ネット・ミラボ (旧イー・ラーニング研究所) . 「全国統一タイピングスキル調査 2024 小学生・中学生のタイピング実態」 ミラボ公式調査レポート. 2024-12-01.
<https://mirabo.co.jp/report/typing2024> (参照 2025-12-7) .
3. 久保田美子. “日本語教育通信 日本語の教え方 イロハ 第 15 回”. 国際交流基金.
<https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/archive/iroha/201210.html> (参照 2025-06-25) .
4. 文部科学省. 小学校学習指導要領 解説 (国語編) . 平成 29 年改訂. 2017.
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_002.pdf (参照 2025-11-30)
5. リセマム編集部. 「全国の小学生の 8 割以上が日常的に PC 入力を経験 “子どもと ICT 利用” に関する全国調査」 リセマム. 2025-01-15.
<https://resemom.jp/article/2025/01/15/78999.html> (参照 2025-12-7) .